

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

自然の中には確かに人知を絶する巧妙な智慧が働いていて、しばしば人間のおごりを叩きのめす。自然の中にあるバランスを回復する仕組みは、近頃ではガイア仮説という形でも語られているが、システムの自己回復性が完全であるなら、われわれは好きなだけ自然破壊をしても大丈夫だということになる。

しかし、地球温暖化、原子エネルギーの開発、臓器移植、遺伝子操作と並べてみると、共通の特徴が見えてくる。地球温暖化は地球の熱バランス回復システムのキャパシティを超える化石エネルギーの消費が行われていることを示している。原子エネルギーの開発は、原子そのものがもつ自己保存の秩序を破壊するだけのエネルギーを原子核にぶつけることができるという意味で、原子の安定性のシステムを破壊する力を人間がもったことを意味している。臓器移植は、個体の自己免疫システムという自己保存の装置を抑制することで、異物を生体に押しつけることで成り立つ技術である。遺伝子操作は、遺伝子の絶対的安定性というアリストテレス以来の信念を破壊することができるといふ証拠である。

それを守ることが人間の生命を守ることが意味

するような自然の中の最善の秩序は、きっと地球の温度の自己調整システム、原子核の安定性、自己免疫システムによる個体の同一性の保持、遺伝子の永続的な再生産というようなささまの自然的な自己同一保存システムで支えられていたにちがいない。しかしここに挙げた技術は、自然の自己回復システムそのものを破壊する形で、成り立っている。

ただし、自然の中の理想的な秩序が人間にとって理想的か、また自然的な自己回復システムが自然そのものにとって理想的であるかといえ、おそらくそうではない。「自然は完全であるか」という問いに、ヘーゲルは「自然は奇形を生み出す」と答えている。本当の意味で完全なものは自然世界には存在しないというのがヘーゲルの究極の答えだった。確かに自然は、人知を超えるシステムをもつかもしれないが、それが理想的であるわけでも、完全であるわけでもない。するとむしろこう言わなくてはならない。完全ではないが、自然的な自然、地球温暖化、原子エネルギーの開発、臓器移植、遺伝子操作を経験する前の自然は歴史的自然である。

(引用先 加藤尚武『脳死・クローン・遺伝子治療』
2004年 立命館大学)

問 傍線部①「歴史的な自然」とは何か。次の中から最も適切なものを選びなさい。

- 1 人類が語り継いできた、さまざまな自然の脅威
- 2 人類が誕生する以前の、はるか太古の自然の姿
- 3 人間が不可逆で永続的な影響を及ぼす力を持つ以前の自然
- 4 様々な史跡に見られる、人間と自然との共生という考え方
- 5 神の意思によって作られた、完全なシステムとしての自然